

後悔の庭
2024年・4月・21日
ポー・スターン・ブレイディ

ここ数年、私の心の叫びは「自由」でした。私は年を取ってきており、私と同年代の人たちがまだ愚かなことに縛られているのを周りでたくさん見えています。苦々しさ、依存症、怒り、嫉妬、プライド、不安に奴隷のように縛られ、長い間それらの鎖に縛られて生きてきたため、それらなしで人生が可能であることにさえ気づいていません。

イエス：罪を犯す者は皆、罪の奴隷です。奴隷は家族の中に永遠に属するわけではありませんが、息子は永遠に家族に属します。ですから、息子があなたを自由にするなら、あなたは本当に自由になるのです。

これは私にとって本当に大きなことのように感じます...鳥肌が立つほど大きなことです。自分が本当に神の息子、娘であると気づいたとき...神が与えてくださる愛を完全に受け取り、その中で生きることができるようになったとき、あなたは自由になります。本当の自由です。これが私が望んでいることです。

自由とは主権に関することです。イエスについてあなたが信じることを選んだ事柄のリストだけではなく、イエスをあなたの人生という庭に招き入れ、歩き回らせ、餌を与え、水をやり、雑草を抜かせた方法も自由です。

雑草抜きは大変です。嫌いです。骨の折れる仕事です。そして、自分の庭の雑草抜きは特に大変です。なぜなら、私たちは一部の雑草に慣れてしまっていて、雑草が他のものの命を奪っていることにさえ気づかないからです。あるいは、一部の雑草は、本当に、本当に取り除くのが難しいのです(私たちの庭にあるもの - 馬の尻尾?)。あるいは、一部の雑草は見た目がきれいです。私はクィーン アンズ レースが大好きですが、急速に広がり、庭の残りの生命を枯らしてしまいます。場所によっては、悪魔の疫病として知られています。つまり、雑草抜きは難しい仕事です。使徒パウロはこれを理解しています。彼は、初期の教会に宛てて雑草抜きの手紙をたくさん書いています。実際、彼の手紙のほとんどには、少なくともその一部が含まれています。励ましがあれば、訂正もあります。最も直接的なものの1つは、コリントの信徒への手紙1です。(少し歴史の話です)。

彼は彼らと話す：

- 分裂と不統一
- 性的不道徳
- 信者間の訴訟
- 礼拝における無秩序：

- 死者の復活... コリントの信者たちの間での疑問や誤解に対処する(コリントの信徒への手紙一 15章)

これらは仲間の信者たちで、パウロは彼らを兄弟姉妹と呼んでいます。彼らは教会という庭の中にいます。しかし、彼らは雑草を持ち込んでしまい、それが庭全体に影響を与えています。そこでパウロは彼らに主権について手紙を書きます。あなたの意見の相違、性的嗜好、傷やお金の管理、礼拝において、主権はどのように見えるでしょうか。そしてパウロは待ちます... 彼らがまだ自分を愛しているかどうか思いを巡らしながら。別の言い方をすればよかったのではないか、あるいは後で何かを残しておけばよかったのではないか、あるいはもっと抵抗の少ない道を選べたのではないか、と考えながら。(私は牧師としても親としても、数え切れないほど同じ経験をしてきました。)コリントの教会はこの手紙をどうするでしょうか。手紙が引き起こした痛みをどうするでしょうか。痛みの使者にどう反応するでしょうか。これがコリント人への第一の手紙です。

コリント人への第二の手紙は、パウロの続編です。とても美しい手紙で、私たちは残りの時間をその一角で過ごし、イエスが私たちに何を伝えたいのかを見ながら、私たちが庭や教会前の庭の手入れをします。何世代にもわたって花を咲かせる植物を育てるために働きます。アン女王のレースの畑ではなく、成長が早く、見た目も美しく、最終的には他のすべての生命を消し去ってしまう植物です。

コリント人への第二の手紙

”愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くならうではないか。”

コリント人への第二の手紙 7:1 口語訳

この節は独立した節のように思えますが、これはパウロの次の節のテキストの基礎となっており、そこでは私たちの魂を健全に育成するための秘密兵器である、痛み、悲しみ、後悔が明らかにされます。

”どうか、わたしたちに心を開いてほしい。わたしたちは、だれにも不義をしたことがなく、だれをも破滅におとし入れたことがなく、だれからもだまし取ったことがない。わたしは、責めるつもりでこう言うのではない。前にも言ったように、あなたがたはわたしの心のうちにいて、わたしたちと生死を共にしているのである。わたしはあなたがたを大いに信頼し、大いに誇っている。また、あふれるばかり慰めを受け、あらゆる患難の中にあって喜びに満ちあふれている。”

コリント人への第二の手紙 7:2-4 口語訳

聖書の余白に私はこう書きました。「なんという人生でしょう。どんな苦難があっても、私の喜びは限りなく無限です。」私たちは喜びか悲しみのどちらかにばかり注目しがちですが、パウロは、その両方が一つの心、一つの魂、一つの間精神の中で緊張関係にあるという考えを紹介しています。

それから彼はその問題についてさらに語る:

”さて、マケドニヤに着いたとき、わたしたちの身に少しの休みもなく、さまざまの患難に会い、外には戦い、内には恐れがあった。”

コリント人への第二の手紙 7:5 口語訳

行ったことがありますか？ ありますか？ 読み続けてください...

”しかるに、うちしおれている者を慰める神は、テスの到来によって、わたしたちを慰めて下さった。ただ彼の到来によるばかりではなく、彼があなたがたから受けたその慰めをもって、慰めて下さった。すなわち、あなたがたがわたしを慕っていること、嘆いていること、またわたしに対して熱心であることを知らせてくれたので、わたしの喜びはいよいよ増し加わったのである。”

コリント人への第二の手紙 7:6-7 口語訳

テス＝パウロの信頼できる同僚で、パウロとコリントの教会の間の仲介役を務めている。彼はマケドニアでパウロと会い、教会とその現状についてのニュースを伝えた。パウロはこの節で自分の気持ちを語っているが、実際には、パウロが第一の手紙の形で彼らにもたらした雑草抜きと矯正に対するコリントの人々の反応が何であったかを語っている。私たちはコリントの教会から多くのことを学ぶことができる:

彼らは、訂正が詰まった手紙を受け取ります。隣人に駐車の方法を指示されたら、どう感じますか？あるいは、切符を切られたりしますか？あるいは、友人に「もっとよくしなさい」と迫られたりします。私の仕事では、訂正を受ける機会がたくさんあります。そのたびに、どう対応するかが試されます。私にとって、はっきりとした問いは、「痛みの中にある真実とは何か？」です。コリントの信徒たちもこの問いに直面し、非難したり、非難したりしないこと、苦々しい気持ちになったり、防御的になったりしないこと、そして、使者を殺さないだけでなく、熱烈な関心と、彼の幸福に対する優しく誠実な気遣いをもって彼を見ることを決意しました。

”そこで、たとい、あの手紙であなたがたを悲しませたとしても、わたしはそれを悔いていない。あの手紙がしばらくの間ではあるが、あなたがたを悲しませたのを見て悔いたとしても、今は喜んでいる。それは、あなたがたが悲しんだからではなく、悲しんで悔い改めるに至ったからである。あなたがたがそのように悲しんだのは、神のみこころに添うたことであって、わたしたちからはなんの損害も受けなかったのである。神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救を得させる悔改めに導き、この世の悲しみは死をきたらせる。”

コリント人への第二の手紙 7:8-10 口語訳

私たちの魂を耕すための秘密兵器の1つは、悲しみです。悲しみを認識し、それが私たちの人生に何をもたらそうとしているのかを認識することです。このテキストで、パウロは特に後悔から生じる悲しみについて語っています。

後悔。(「後悔はしない」。ひゃあ。)後悔は強力です。後悔は私たちを元に戻し、方向転換させます。この命を与え、魂を解放するプロセスを表す言葉があります。それは最後の文にあります...

神に喜ばれる悲しみは悔い改めをもたらし、救いに導き、後悔を残しません。しかし、世の悲しみは死をもたらします。2コリント7

彼らを感じた悲しみに対する反応は、真剣さ、潔白を証明したいという熱意、憤り、警戒、切望、懸念、正義が実現されることを望む気持ちです。これは悔い改めから生まれた反応です。メタノイアは方向転換であり、自由と繁栄につながる変化ですが、通常は後悔を引き起こす行為によって始まります。そして、自分自身や他の人に痛みを与えた行為に遭遇したとき、私たちには3つの選択肢があります。

後悔に対する三つの反応:

- 栄養を与える
- 埋める
- 使える

罪悪感、恥、後悔、苦々しさ、怒りで自分を責める。これは自然なことですが、悲惨な決断です。敵は後悔を利用します。それは新しい傷を作り続ける古い武器です。私たちを利用する簡単なトリックです。雑草に餌を与えないでください！

埋めてください。正当化し、ブロックし、何かまたは誰かのせいになります。何か他のことで気を紛らわせます。何か他のことで自分を麻痺させます。しかし、これは長期的には決してうまくいきません。雑草に餌を与えないでください。しかし、埋めないでください。私のハードにある馬の尻尾のように、雑草は埋もれたままにならず、あなたを閉じ込め続けるからです。

使ってください。悔い改め！土壌を改良してください。しかし、悔い改めは難しいものです。なぜなら、それは単なる出来事や行動や謝罪以上のものであり、変化だからです。それは新しいやり方の模倣なのです。

「私たちのほとんどは、悔い改めよりも後悔を好みます。実際に行動を変えるよりも、「ごめんなさい。本当にごめんなさい。自分がしたことについて本当にひどい気持ちです」と言う方を選びます。慢性的な罪悪感、変化を避けるために私たちが喜んで払う代償なのです。」バーバラ・ビ・テラー

歩いた道を引き返し、方向転換する。

あなたの魂の庭を歩いてみてください...乾いて、不毛で、雑草が生い茂っているように感じる場所。その後悔の名前を書き留めてください。

その後悔に対処するために、まだやっていないことはありますか？ 許しを求めますか？ 間違いを正しますか？ 話し合いますか？ 境界線を設定しますか？

----> 聖霊に洞察を求めなさい。

-この件での僕の責任は何だったのでしょうか？（正直に思い出して）

-僕がまだやっていないこと（許しを請う、賠償をする、何らかの方法で怒りや恨みを手放すなど）をする必要があるでしょうか。

-当時と今、何が勝利だったのか？何を学んだのか？（正確に覚えている限り）

-私はあなたに許されましたか？私は自分自身を許しましたか？（自分が犯した間違いを許してください。自分がやるべきことをできる限りやりましたか？よりよく知ったら、よりよくやりましょう。ただし、自分が知らなかったことを知らなかったことに対しては、自分自身に余裕を持たせてください。自分が知らなかったことを知らなかったことを、自分自身に許してください。神を十分に信頼していなかったことを、自分自身に許してください。

悔い改めの種は真実の収穫へと成長し、真実はあなたを自由にします。

返事